

付録1 レポート・論文の書き方の参考文献

論文・レポートの書き方について、さらに詳しい文献を紹介します。論文・レポートを書くために必要な知識と技術を習得するためには、まずどれか一つ読み通してください。レポート・論文の書き方が、必ず向上するはずです。

(1) 文章作法や文章表現がわかる入門書

- 『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康（講談社現代新書 1603）
講談社 2002：本館学閲新書版 [US1/0199] ほか
今すぐレポート・論文を書く必要がある人に、お薦めの本。レポート・論文の書式設定から説明しているので、すぐに書き始めることができる。その後、思考の方法もあり、後半では卒業論文の執筆の流れなどにも言及していて、実用的である。新入生でも読みやすい文章と、読みやすいレイアウトである。
- 『理系のためのレポート・論文完全ナビ』 見延庄士郎著 講談社 2008：
本館学閲 [M112/017] ほか
文章を書くコツから、図表の描き方、論文の検索法まで、実験レポート・卒業論文作成の“常道”をわかりやすく説明している。豊富な例文で文章作成について詳解してある第二部は、理系のみならず文系にも有用。第三部では、ネット情報の利用法と、主要な文献データベースの使い方を解説している。
- 『レポート・論文の書き方入門』 第3版 河野哲也 慶應義塾大学出版会
2002：本館学閲 [UC813/049]
本書は、特に文科系の大学生向けにレポートや論文の構成の仕方を、ハウツー的にまとめている。文献が研究の素材となる文科系の学生にとって、「テキスト批評」という有効な準備方法について紹介している。引用や注、参考文献の作成方法まで、具体例を多くのせて実用的であることも特色といえる。
- 『日本語の作文技術』 新装版 本多勝一（朝日文庫）朝日新聞社 2005：
本館学閲 [KF151/0125] ほか
読む側にとってわかりやすく、誤解を与えない文章とはどのようなものか、豊富な事例を挙げて説明している。修飾語の語順や、句読点の使い方についての解説は参考になる。特に4章までの前半は、日本語の文章作法についてもっとも具体的で分かりやすい名著。執筆当時、著者は新聞記者であった。

(2) 情報収集の方法もわかる入門書

- 『レポートの作り方：情報収集からプレゼンテーションまで』 江下雅之（中公新書 1718）中央公論社 2003：本館学閲新書版 [US1/0197] ほか
文章の書き方や論文の構成だけではなく、「中身」の作り方を含めて調査研究の全体について書かれている。テーマ設定・構想から、資料収集・整理、調査（アンケート・インタビュー）、レポート作成（図表・本文）、発表までを段階ごとに説明している。レポート・論文作成の全体像がわかる本。
- 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』 佐藤望ほか 慶應義塾大学出版会 2006：本館学閲 [FD37/0101] ほか
特に、どのように「問い」を発見し、テーマを設定すればよいのか、大学の講義ノートの取り方を含めて具体的かつわかりやすく説明されている。また巻末の「書式の手引き」は実例が豊富に盛り込まれており、レポートを書く際のチェック用としても有用である。

(3) 学術論文の執筆方法がわかる参考図書

- 『学術論文の技法』新訂版 齊藤孝，西岡達裕 日本エディタースクール出版部 2005：本館学閲 [UC813/064] ほか
人文科学、社会科学系の学生で、これから論文を書き始めようとしている人、あるいは書く必要があるが、どこから手をつけたらいいのかわからずに悩んでいる人にお薦めの本。本書では論文執筆のためのルールとテクニックが丁寧に述べられており、順を追って読み進んでいくうちに頭の中が整理できる。
- 『これからレポート・卒論を書く若者のために』 酒井聡樹 共立出版 2007：本館学閲 [UC813/076] ほか
- 『これから論文を書く若者のために』大改訂増補版 酒井聡樹 共立出版 2006：本館学閲 [UC813/069] ほか
はじめてレポートや卒論を執筆したり、これから学術雑誌に論文を投稿しようとする人にお薦めの本。レポートや論文を執筆するためにはどのようにすれば良いかを、実際のレポートや雑誌論文を例に、具体的に説明している。著者は東北大学教員で、授業「大学生のための情報検索術」を担当。